

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0511
施設名	松葉保育園
施設所在地	稲城市矢野口2065
法人名	社会福祉法人東保育会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

大きなしゃぼん玉をつくろう！
(しゃぼんだまあそび)

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
7月に観劇会でシャボン玉ショーを観た幼児クラスの子ども達から、「しゃぼんだまやりた
い!」「おおきなしゃぼんだまつくりたい」という声が多く上がった。そのため、しゃぼん
玉あそびをテーマに「どうしたら大きなしゃぼん玉がつかれるのだろう?」を問いに活動を
進めていった。

2. 活動スケジュール

7月：シャボン玉ショーでバブリン先生を観た
すぐに「しゃぼんだまつくりたい!」と興味を示した
7・8月：3・4・5歳の各クラスや、異年齢グループでシャボン玉遊びを続けた
並行して、5歳児の特に関心を持ち続けていた子ども達と子ども会議（さくら
会議）を重ねながら、割れにくいシャボン玉を作るには?大きなシャボン玉を
作るには?と問いを進化させていった。
9月：シャボン玉ショーをおこなった

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
シャボン玉溶液の材料。精製水・洗濯のり・合成洗剤・ガムシロップなど。混ぜるための容
器や小分けする容器。ストロー、フラフープ、布。STEMコーナーの設定。科学実験棚2台。
書籍など。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

7月に観劇会でシャボン玉ショーを観た幼児クラスの子ども達から、「しゃぼんだまやりたい!」「おおきなしゃぼんだまつくりたい」という声が多く上がった。子ども会議を繰り返しながら、何を混ぜたら割れないか、どのようにすれば大きなシャボン玉が作れるかを考えていった。3歳児4歳児もシャボン玉に色を着けたり、水の中に膨らませたりと活動を深めていった。その後、「バブリンせんせいみたいなしゃぼんだまショーをしたい!」との意見から、乳児クラスを招待してショーを行い、大きなシャボン玉に乳児を入れることに成功していた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

さくら会議を重ねながら、「こおりがかたいから、こおりをいれればいいんじゃないかな」「しらべたらしおがいいんだって」「おおきくつくって〇〇ちゃん(妹)をいれてあげたい」などと熱心に話し合いを進めたり、必要な材料を集めて実験をしたりしていた。保育者は「先生は分からないからおうちのひとに聞いてみたら?」などと、家庭を巻き込んでいくように関わっていった。シャボン玉ショーでは、招待状を作ったり、司会など役割を決めたり、ポスターを作ったり、乳児クラスの子どもや職員を招待し、ショーを成功させていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子ども達の興味関心から始まった活動のため、主体的に取り組んでいた。次から次へと生まれる疑問を自分たちで熱心に調べていた。このシャボン玉の活動によって、確かに子ども達の探究心や協同性の高まりを感じた。子どもの姿から始まる活動こそが子ども達の総合的な能力を高めていくのだとあらためて感じた活動だった。